

みんなで考えよう

白岡市のこれからの学校

課題解決に向けて、市が目指すこれからの学校の方向性をお伝えします

先月号では、市内の児童生徒数の減少や校舎の老朽化といった現状と課題をお伝えしました。今月号では、それらの課題を解決するために、将来に向けて市がどのような学校を目指しているのか、具体的な方向性を紹介します。

白岡市立学校適正規模・適正配置審議会での議論

市の現状や課題を受け、以下の5つの論点を設定し、**こどもたちの資質・能力を最大限に伸ばせる環境づくり**について今後の方向性などをまとめました。

●各論点における教育上の課題と今後の方向性(一部抜粋)

論点	教育上の課題	今後の方向性	
		適正規模	適正配置
適正規模・適正配置	適正な学校規模の確保	小学校：18学級～24学級 中学校：12学級～18学級	小学校：おおむね4km以内、おおむね1時間以内 中学校：おおむね6km以内、おおむね1時間以内
		少人数指導・教科担任制	・少人数指導や教科担任制の充実による、個に応じた児童・生徒へのきめ細やかな支援を推進する。
新たな学習	個別最適な学びと協働的な学び	・引き続き、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図っていく。 ・ICTの特性や強みを生かしたきめ細かな教育を推進する。	
	小中連携	・小中学校の9年間を一貫した成長期間として捉え、「学び」と「育ち」の連続性を確保し、小中連携のもと、途切れない成長の実現を目指す。	
多様なニーズにこたえる	特別支援教育	・一人ひとりの教育ニーズに応えられるよう、特別支援学級などの体制及び環境整備の充実を図る。	
	不登校支援	・教室まで行けないこどもの教育相談体制などの一層の充実を図る。 ・学校に来られないこどもの居場所づくりや学習機会などの提供に努める。	
地域連携	コミュニティ・スクール	・家庭、地域、学校、行政がさらに連携し、地域全体が一体となってこどもを育てる「開かれた学校」の実現を目指す。	
環境の充実	学校教育施設	・老朽化対策や大規模改修など築年数に応じた整備を実施する。 ・学校再編を含め、施設の整備レベルを見直し、施設の機能向上による学習環境の充実を図る。	
	他の公共施設の複合化・共用化	・学校施設と集会所、児童保育施設などの公共施設の複合化・共用化を推進し、学校を地域の学び、交流などの拠点として活用する。	

魅力ある学校づくりに向けて

3つの柱と白岡らしい教育で こどもたちの未来を支える

市では、昨年度、目指すべき学校のあり方を具現化するため、「将来ビジョン」をまとめました。その中で、これからの学校づくりの方向性を「3つの柱」と「白岡らしい教育(白岡市の特色を生かした教育)」として整理しました。

柱①

一人ひとりが輝く 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実

- 多様な学習が展開できる適正な学校規模の確保
- 少人数指導や教科担任制によるきめ細やかな支援
- 特別支援教育や不登校支援による多様な学びの保障
- 「学び」と「育ち」の連続性を確保した小中連携の推進

柱②

地域とともに育む 「協働と創造の学び」の推進

- 学校運営協議会など地域との連携基盤の強化
- 地域の自然や文化を教材とした探究的学習の推進
- 地域住民や企業と連携した社会に開かれた学びの場の拡充

柱③

安心・安全で 「快適な学校環境」の実現

- 学校施設の機能強化と魅力向上を両立した整備の推進
- 地域の実情に応じた学校施設と他の公共施設との複合化・共用化の推進
- 教職員の働き方改革につながる学校づくりの推進



これからの学校の
あり方を実現するための

3つの柱

+α

生涯学習センターの活用

人口一人当たりの図書貸出実績が県内3位を誇る、生涯学習センター「こもれびの森」。この強みを学校教育と深く融合させ、こどもたちが自らの興味を深める「探究的な学び」を支える環境を整えます。



市では、これら3つの柱と白岡らしい教育を一体的に推進し、将来を見据えながら、こどもたち一人ひとりが幸せを感じ、安心して過ごせる、最適な教育環境の実現を目指します。



こちらをご覧ください